

弥陀ヶ原の火山活動解説資料（平成 26 年 11 月）

気 象 庁 地 震 火 山 部
火山監視・情報センター

弥陀ヶ原近傍の地震は少ない状態で経過しています。

立山地獄谷では以前から熱活動が活発に継続しており、この付近では火山ガスが高濃度になることがありますので、注意してください。

平成 19 年 12 月 1 日に噴火予報（平常）を発表しました。その後、予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

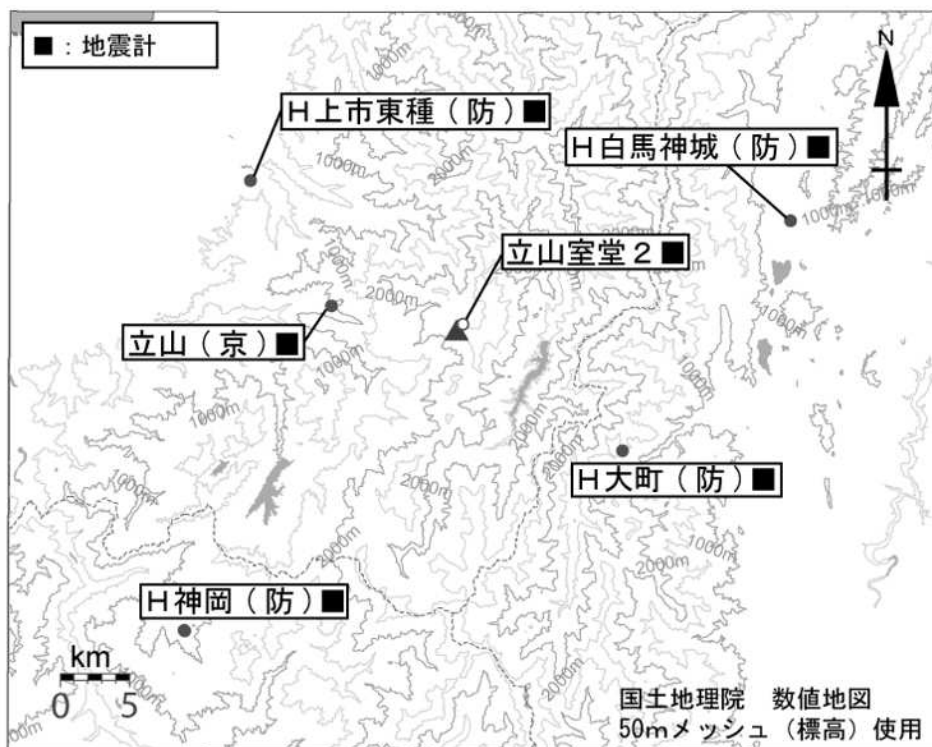
・地震や微動の発生状況（図 2）

弥陀ヶ原近傍を震源とする火山性地震の発生回数は少なく、地震活動は低調に経過しています。火山性微動は観測されていません。

・噴気など表面現象の状況（図 3～7）

10 月 31 日（期間外）に北陸地方整備局の協力により実施した上空からの観測では、地獄谷周辺で引き続き活発な噴気活動が認められました。赤外熱映像装置¹⁾による観測では、地獄谷周辺などに引き続き高温域が見られました。

1) 赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感知して温度を測定する測器で、熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の温度より低く測定される場合があります。



小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
(防)：防災科学技術研究所、(京)：京都大学防災研究所

図 1 弥陀ヶ原 観測点配置図

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>）でも閲覧できます。次回の火山活動解説資料（平成 26 年 12 月分）は平成 27 年 1 月 13 日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、京都大学、名古屋大学及び独立行政法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』『数値地図 25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号：平 23 情使、第 467 号）。

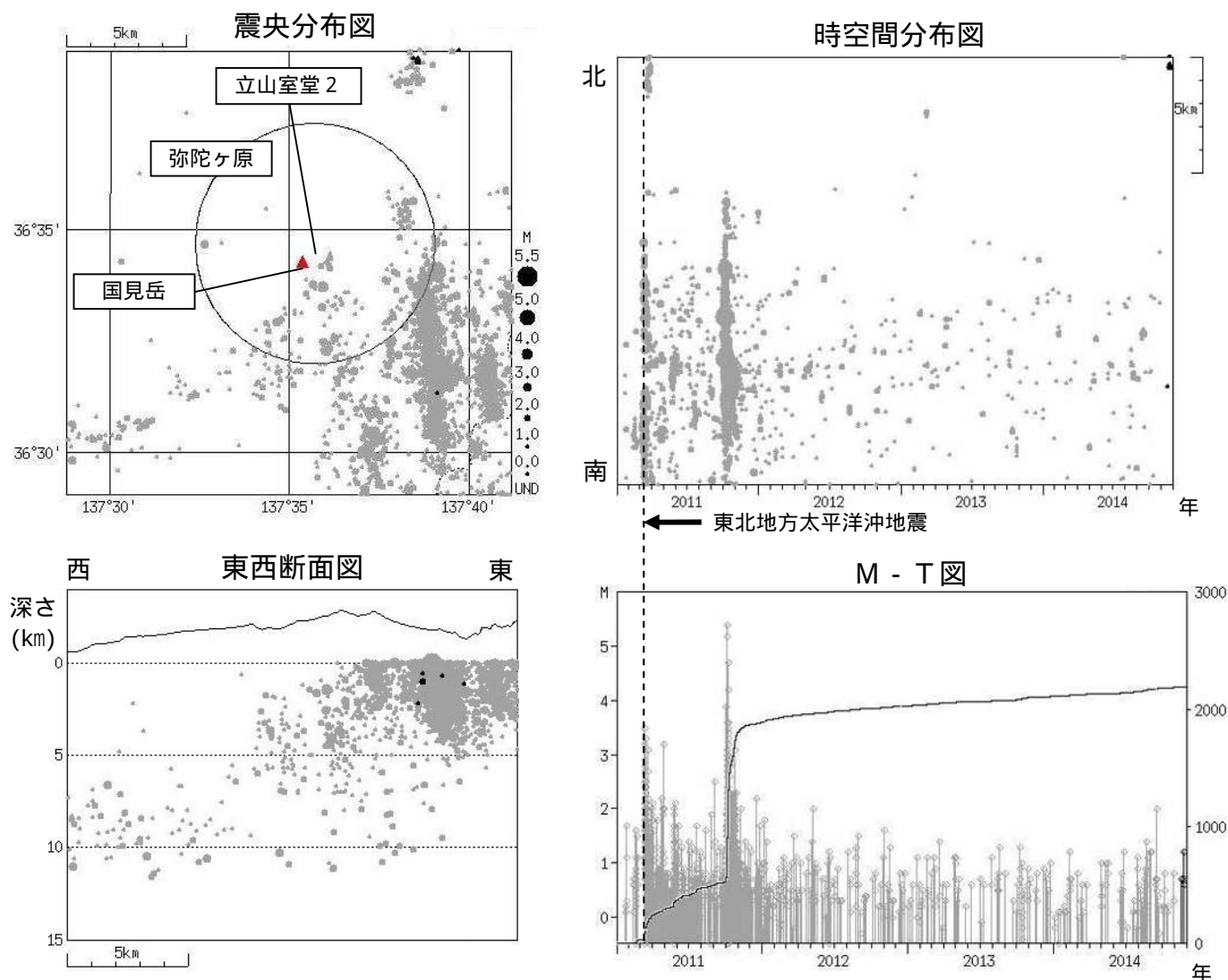


図 2 弥陀ヶ原 広域地震観測網による山体・周辺の地震活動（2011 年 1 月 1 日～2014 年 11 月 30 日）

- ：2011 年 1 月 1 日～2014 年 10 月 31 日 ●：2014 年 11 月 1 日～11 月 30 日
- ・ 震央分布図内の円は、立山室堂に設置した地震計（立山室堂 2）で地震回数を計数している S-P 時間 1 秒以内となるおよその範囲を示します。
- ・ M（マグニチュード）は地震の規模を表します。
- ・ 図中の震源要素は一部暫定値が含まれており、後日変更することがあります。
- ・ 弥陀ヶ原近傍の地震活動は、低調に経過しています。

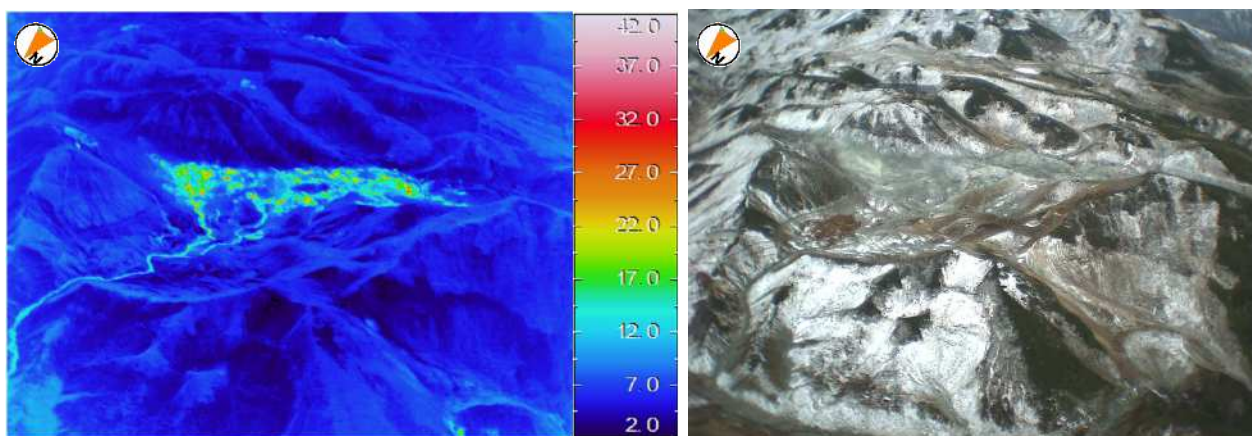


図3 弥陀ヶ原 地獄谷付近の状況
2014 年 10 月 31 日 11 時 34 分地獄谷の北西側から撮影
地獄谷一帯に高温域がみられます。

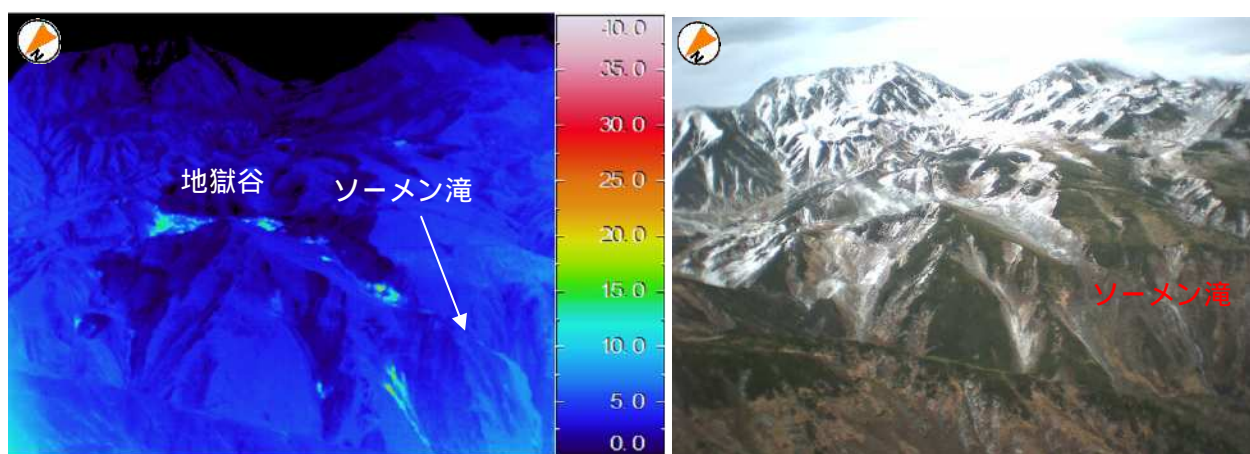


図4 弥陀ヶ原 ソーメン滝付近の状況
2014 年 10 月 31 日 11 時 24 分ソーメン滝の北西側から撮影
ソーメン滝周辺にいくつか高温域がみられます。

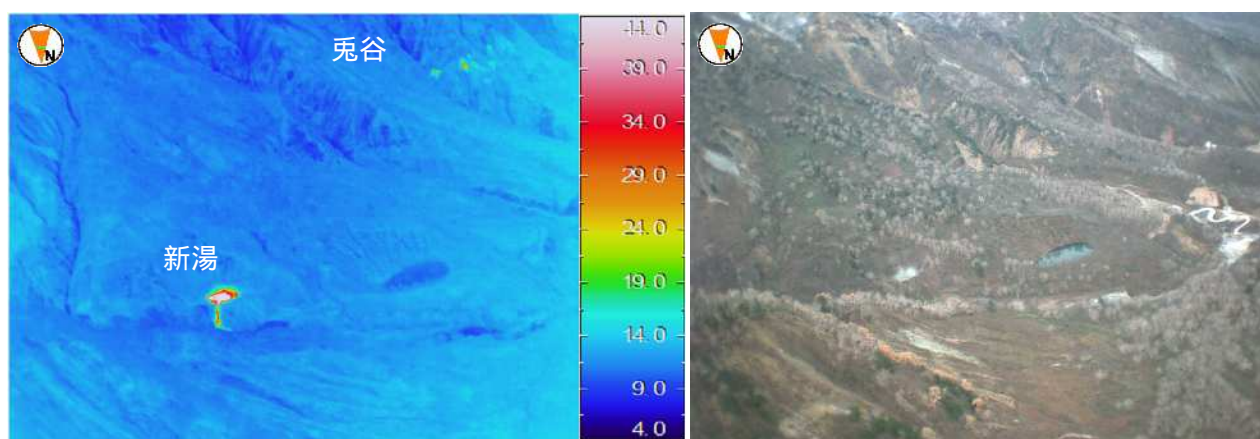


図5 弥陀ヶ原 立山カルデラ新湯付近の状況
2014 年 10 月 31 日 11 時 39 分新湯の北側から撮影
新湯や兎谷付近に高温域がみられます。

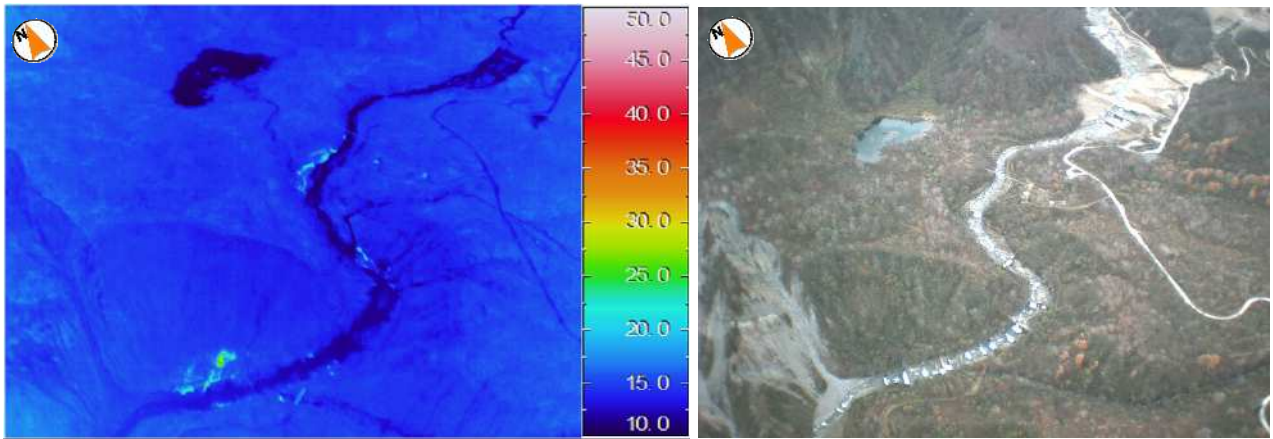


図 6 弥陀ヶ原 立山カルデラ温泉源付近の状況
2014 年 10 月 31 日 11 時 46 分温泉源の南西側から撮影
川沿いにいくつかの高温域がみられます。

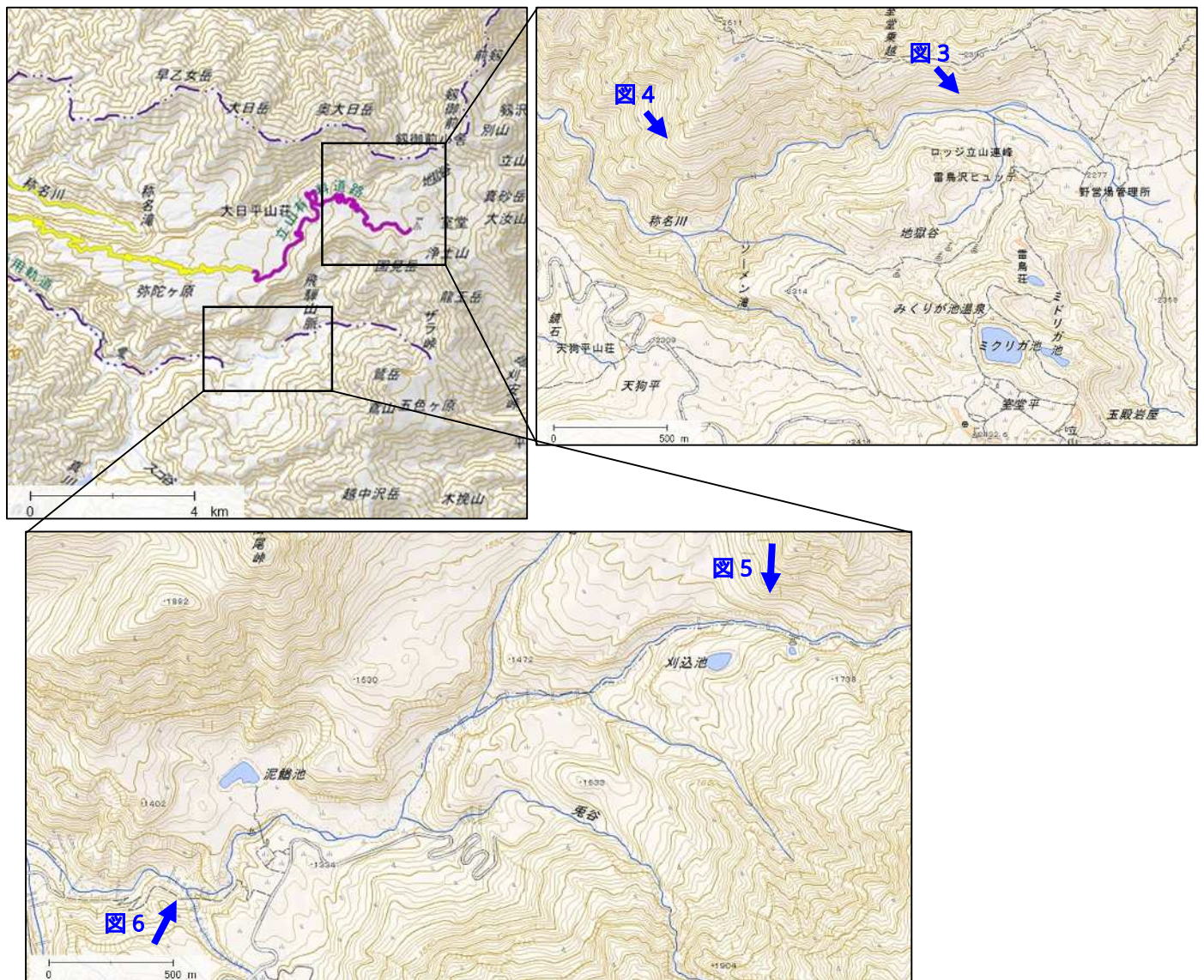


図 7 弥陀ヶ原 撮影位置図
図中の矢印は図 3 ～ 6 の撮影位置と撮影方向を示します。